

不思議 4 再建その2

康正元年（1455）に再建されたあとは、棟札から寛永14年（1637）に再建されたことが分かります。約180年後の再建となります。ここに疑問が生じます。

現在の本殿は寛永14年のもので約380年経っています。康正元年から寛永14年までの期間が、寛永14年から現在までの期間の約2分の1しかありません。これは建築技術の違いなのでしょう。屋根の葺き替えだとか部分修理ということなら理解できるのですが、全くの再建を行う何かの理由があったのではないのでしょうか。

正長元年（1428）の約170年前の弘長元年（1261）にも兵火により焼失していることから、現本殿建立までにも兵乱があったのでは？ 江戸以前は戦国時代という戦にあけくれた時代もあります。そこで、畠山記の正長元年以降を探ってみました。

「永禄十一戊辰年（1568）十月十九日、高野ノ僧徒又宇智郡へ高築ヨリ寄来テ、川南ノ在々放火シテ靈安寺ノ御靈宮ヲ焼立ケレハ、不易ノ御社ト作り琢（みがく）カレケル宝殿ナリシヲ、空ク兵燹モ塵トソナラセ玉ヒニケル。」

やはりありました。高野山の僧徒が御霊神社を焼き討ちにしたということです。なぜ、高野山の僧徒が？